



つづきジュニア編集局 記者紹介



 あだち あやこ 足立 理子 すみれが丘小学校 5年	 う じ はなえ 宇治 華笑 牛久保小学校 5年	 かたい みれい 片井 美礼 中川西小学校 5年	 かとう じゅり 加藤 朱莉 中川西小学校 5年	 きくち なおき 菊池 直希 荏田小学校 5年	 くわの こうき 桑野 煌己 山田小学校 5年	 しみず まお 清水 麻緒 すみれが丘小学校 5年
 しらいし ひかる 白石 光 南山田小学校 5年	 すずき しょうた 鈴木 翔大 荏田東第一小学校 5年	 そうどう り さ 草郷 緑彩 都筑小学校 5年	 たかはし な な 高橋 那菜子 南山田小学校 5年	 たなか きより 田中 希和 茅ヶ崎東小学校 5年	 たなか みゅう 田中 美宇 聖セシリア小学校 5年	 はせがわ あ み 長谷川 絢美 都筑小学校 5年
 ふくなが あいり 福永 愛莉 新吉田第二小学校 5年	 ふじえ りんたろう 藤江 凜太郎 南山田小学校 5年	 まつおか り こ 松岡 莉香 都筑小学校 5年	 みやざわ かずま 宮沢 一雅 南山田小学校 5年	 みやざわ ゆ り 宮澤 友里 中川西小学校 5年	 もり ゆうり 森 結里 山田小学校 5年	 やまだ さゆき 山田 咲幸 川和小学校 5年
 いしわた り はると 石渡 晴翔 中川小学校 6年	 かせい れい 河西 礼 都田西小学校 6年	 く ぼ しんのすけ 久保 心之介 勝田小学校 6年	 こもり し ほ 小森 志穂 茅ヶ崎東小学校 6年	 しかた あ か り 四方 あかり 南山田小学校 6年	 たおか み ゆ 田岡 美優 川和小学校 6年	 たかと り あんな 鷹取 杏奈 市ヶ尾小学校 6年
 たけした かな 竹下 奏 都筑小学校 6年	 みやした あつゆき 宮下 敦行 折本小学校 6年	 やまだ ましろ 山田 真白 すみれが丘小学校 6年	 よしむら みこと 吉村 心琴 川和東小学校 6年	 えんどう り お 遠藤 凜音 川和中学校 1年	 さくみ り こ 佐貴 莉子 中川西中学校 1年	

記者の並び順は
学年ごとの
50 音順に
なっています



編集後記 <東京都市大学メディア情報学部中村雅子研究室ゼミ>

2018年度のつづきジュニア編集局は、記者の募集を5年生からにしました。それでも、36名のジュニア記者が集まり、たくさんの取材をすることができました。

大学生スタッフも取材に同行することで企業や団体の方々から、いろいろお話を聞き、貴重な体験をさせてもらうことができました。

ジュニア記者たちが、これから、ここで経験を生かした活躍をしていくことを期待しています。



藤井悠太郎・長谷川藍子・木本啓介・橋立湧希
松尾航平・支倉瑞輝・村木俊介

ジュニア編集局は、東京都市大学メディア情報学部の中村雅子研究室と連携して行っています。こども会議でのファシリテーションや、取材先への付き添いを、大学生がサポートしてくれています。

第10号 2019年(平成31年) 1月発行
編集 つづきジュニア編集局
(事務局 NPO 法人ミニシティ・プラス)
発行 NPO 法人ミニシティ・プラス
http://junior.minicity-plus.jp/
(e-mail minicityplus@gmail.com)
東京都市大学メディア情報学部 中村雅子研究室
後援 都筑区役所

ジュニアタイムズは印刷費を横浜読売会にご支援いただき、作成しています。



つづきジュニア編集局 10 周年企画

ジュニア記者卒業生はどうしてる？

「ここまで子どもが主体的に関われる活動はない」

◆TJ：小4から中3。ACT：中1から高3まで。MY市民として小4から、現在も参加。MYでは2期市長をつとめた。現在NPO法人ミニシティ・プラス会員。高校2年のとき、クラウドファンディングでドイツのこどものまち「ミニミュンヘン」に行き、取材。現在は、専門学校でカフェの勉強中。

普通にはない活動なので、おもしろそうだと思ってTJに参加。印象に残った活動は、都筑区内の「駄菓子屋」調査や公園のトイレ調査。記者になったことで、知らない人とも積極的に話せるようになった。他にも学校では知り合えない人とも知り合えたり、人前に立って話すことが得意になったり。また、みんなで付箋をつかったりして意見を出し合い、それをまとめ、発表することに慣れ、それが今、学校での商品企画会議に活きている。ミニシティの活動にはTJもACTもスタート時から参加している。自由な雰囲気。ここまですべてが主体的に関われる社会的な活動はないと思う。



コンテストを企画し、司会を担当した

「ジュニア記者の活動から、本物の新聞記者へ」

◆TJ中1から高2まで。ACT高3まで。現在大学4年生。来春から本物の新聞記者として働くことに！NPO法人ミニシティ・プラス会員。家の人が見つけてきて、最初はいや

いや。でも行って話をきいたら興味深かったため参加を決めた。都筑区長の取材で区長室に入ったことや自分で鶴見川の取材をしてまとめたことがよい経験になった。自分の興味のあることをがんばって調べ、まとめる力がついた。記者になり、大人と物怖じせず話すことができるようになった。好奇心を持ったことを行動に移し、それを大人にサポートしてもらいながらできるのが大きかった。自分なりに工夫してわかりやすく人に伝えることを、中学のときから考えていたのはすごくいいところ。学校以外のことで、しっかり活動したのは、ミニシティプラスの活動だけ。春から新聞社で働くことになったのも、この活動があったから。確実に自分の人生に影響を与えた。



ジュニア編集局会議

「アイデアを空想だけで終わらせず、現実に持っていく力をつけた」

◆TJ：小4、小5に参加。ACT中3から高3まで参加。現在大学1年生。将来は社会科の先生になりたい。母に勧められて参加した。「海の工芸祭」の取材をしたとき、プレスの腕章をつけて、会場内を取材できた特別感が

「TJ Times」は、「つづきジュニア編集局」の広報紙です。

ぼくたち、わたしたちの未来、勉強中です！！

つづきジュニア編集局は、横浜開港 150 周年・都筑区制 15 周年記念事業として平成 21 年にスタート。毎年公募で集まったジュニア記者たちがこどもの目線と力をフルに活かして取材にいき、記事を書いています。今年度 10 年目となりました。

現在運営は、NPO 法人ミニシティ・プラスと東京都市大学中村雅子研究室が連携し、都筑区役所の後援を得て行っています。都筑区や横浜の魅力を発信するジュニア記者たちの活動に、ぜひご期待ください。活動への寄付での応援もお待ちしております。



このジュニアタイムズの印刷費は、横浜読売会の協賛によりまかなっています
ジュニア編集局のホームページ <http://junior.minicity-plus.jp/>

つづきジュニア編集局をはじめ710年が経過。先輩ジュニア記者たちは、どんな人になっているんだろう。ぜひお話を聞いてみたい！ということになり、7人のOBOGにインタビューしました。

「取材で地域を知り、地元愛が生まれた」



◆TJ：中3～高校3年まで ACT：高3
大学生のときNPOのお手伝いもしていた。今は社会人2年生。家の人がチラシをみて、勧めてく

られて参加した。サーティワン工場取材や緑道の十二支の石を調査したことが印象に残っている。うちは450年続く地元の農家なので、祖母に農家の料理のレシピを取材して記事にしたりもした。自分は意見を出すのが遅いほうで、1つのアイデアを出すのに何日も考える方だったけれど、編集局の会議では、時間内に決めなくてはならないときが多く、とりあえず浮かんだことをどんどん出していたら、積極的に意見が言えるようになっていた。内気だった性格が変わった。取材で地域のことを知って、気にしなければなんでもないものに実は意味がこもっていたりして、地元愛が育まれたと思う。ACTでは、何度も大人と会議して「特命事項」を解決して、実行するまで関わる。それが好き



成果発表会で活動報告

「取材や活動で大人とのよい付き合い方を学んだ」



◆TJ小5から小6。ACT小6から中2までと、現在高1でMY副市長とMMジュニア記者、ACTとトリプル参加中。ジュニアタイムズをみて応募した。

橋本まみな文章講座のおかげで文章力がついていた。取材のときに質問しようとかんばったのでそれが積極性にもつながった。ACTは、どの活動も楽しい。環境啓蒙をこどもたちにもわかりやすく、ということで音楽付きのデジタル紙芝居をつくった。脚本家の方と話し合いながら完成し、デパートやホールで披露した。大人とのいい付き合い方を学んだ。アイデアが活かされる活動なので、常に自分の考えを持っていることが大切だと知った。MYでは市長や副市長をして、公共の仕事というものがどういうものなのか、こどものまちをつくることで自分のまちがどんなふうにできているのか、まちの一つひとつに目を向けるようになった。



デジタル紙芝居での声担当

終わらせず、現実的にもっていき力が身についた。提意見が失敗作だったとしても回りの大人がフォローしてくれる。学外に友だちができるのもよいところ。学校という狭い世界の中で逃げ場がなかったりするとき、学外に友だちがいることがいいときもある。



LINEアプリ開発会議